

科目名	重複障害児教育総論（重複・LD等領域）					単位	2.0
担当教員	繁昌 成明						
授業形態	講義	開講期間	後期	配当年次	3	授業番号	1373

●授業のテーマ

重複障害児教育のあゆみと教育支援

●到達目標

重複障害児教育の基礎知識を学び、障害児の家族の思いを受け止めた個別支援の方法、及び福祉と連携した教育支援の基礎力を身につける。

●学習内容(授業概要)

21世紀に入り、日本の障害児教育は大きな変革の時期を迎えている。これまでのあゆみの中では、ろう、盲、精神薄弱、肢体不自由、病・虚弱、情緒障害、言語障害という障害種別ごとに教育の充実が図られてきた。中でも、1979年の養護学校義務制度化は、重度・重複障害児も含めて発達上に何らかの障害を持つ児童生徒に対して、広く社会の中に包み込む教育の場を提供することになり、今日の障害児・者教育に繋がる飛躍的な発展をもたらしたといえる。そして今般、日本の障害児教育は「特別支援教育」（特別発達支援教育）へと改称され、これまでより以上に一人ひとりの特別な教育ニーズを把握した教育支援のあり方へと移行してきている。

そこで、本講義では特別支援教育の対象として、重複障害教育の総論を学ぶ。今日の状況を見ると、義務教育段階に占める重度・重複障害のある児童生徒の比率が増加傾向を示している。その理由・原因等は明確ではないが、それだけ教育に対する期待と責任が今後も高まる分野であるといえる。

講義にあたり、長期継続的に発達障害児・者への療育実践（治療・教育）を行なっている立場から、重複障害教育にとっての発達保障、教育保障を求め、糸賀一雄の「この子らを世の光に」の言葉に表現されている人間理解の思想を大切に共に学んでいきたい。

●学習内容(授業計画)

1. 重複障害教育のあゆみ
2. 重複障害の定義
3. 重複障害の医療的ケアについて（教育と医療の連携）
4. 特別支援教育(特別支援学校)におけるこれからの重複障害教育
5. 教育支援計画
6. 盲及び聾教育
7. 精神薄弱及び肢体不自由教育
8. 病弱及び情緒障害と言語障害教育
9. 発達状況を捉えることの重要性（身体面・知的側面）
10. 重複障害教育における授業づくり
11. 重複障害の発達可能性と教育
12. 教育実践を支える関わり方（関係性を大切にすること）
13. 日常生活全般をつかむ事の重要性（教育現場と家庭生活を結ぶように）
14. 重複障害教育における地域社会との連携と支援

15. 重複障害と福祉、そして共に生きるということ

●準備学習・事後学習の内容

準備：毎回のテーマごとに、関心のある事項について下調べをすること。

事後：毎回の授業で学習したキーワードを書き出しておく。

●成績評価方法・基準

発表・討論 60%、レポート 40%

●テキスト（必携）

特に使用しない

●参考文献／その他

随時資料頒布

●履修上の注意

自発性と共に学び合う意識を持つこと。